

食のみやこアクションプログラム(案)に関するパブリックコメントの結果について

平成21年7月 8日
企画部政策企画総室

- 鳥取県では、豊かな自然環境に恵まれ「安全・安心・美味しい」農林水産物があふれる本県の魅力を活かし、食にこだわる県づくりを進めるための行動計画「食のみやこアクションプログラム」を策定しました。
- 「食のみやこアクションプログラム」の策定に当たり、平成21年3月に作成した「食のみやこアクションプログラム(案)」に対する御意見を募集するパブリックコメントを実施しましたので、その結果を下記のとおり報告します。

1 パブリックコメントの応募状況

(1) 意見募集内容

- ・食のみやこアクションプログラム(案)に対する意見や感想
- ・「食のみやこ鳥取県」を実現するためのアイデアや考え

(2) 意見募集期間

平成21年3月7日(土)～5月31日(日)

(3) 周知・応募方法

周知方法 ホームページ、新聞広告、市町村・団体等への資料提供

応募方法 郵送、ファクシミリ、電子メール、県民室・県民局・県立図書館の意見募集箱への投函

(4) 応募件数

43件(36名)

2 主な意見と対応状況

- (1) アクションプログラムに反映させていただいたご意見や視点(一部のみ反映したものを含む)。
・・・19件

分野	ご意見
プログラムのねらいと方向性	○もともとある料理をおいしく食べれば、作ればいい。鳥取の人が楽しんでおいしいものを食べれば自然に人は集まる。
I 食を学ぶ	3 地産地消 ○地産地消、食育を推進するため、鳥取県内のデパート・スーパーにアンテナショップ、レストランを設置する。
	4 環境 ○地球に優しい、専門的なことを子どものうちから家庭・地域で学べればよい。
	8 料理を作る ○有名なシェフ等の講演会、調理実習、質問ができる機会が増えれば意識が高まる。 ○生活自体にゆとりがなく、働き方についても何か対策がほしい。 ○家庭で料理をする時間的余裕の確保が必要。 ○食育にしろ地産地消にしろ、料理の技術が伴わなければならない。親から子に代々伝わってきていたものが失われている。 ○郷土料理など、子ども会と公民館が一緒にできるならば栄養士さんを含め、一緒につくる機会を作ってみては。
9 家庭・家族	○朝食は家族全員で会話を交えて一緒に食べるような家庭環境をつくるのが健康的にも求められている。

	10 歴史・文化、うんちく、郷土料理	<p>○親・子・孫世代による、郷土料理の伝承を通じ、鳥取県民の舌を育む。</p> <p>○創作料理を開発するのもいいが、伝統料理の中にこそ鳥取ブランドがたくさんある。それは「ばあちゃんの知恵袋」。もっともっとばあちゃんに耳を傾けるべき。</p> <p>○最も大切なことは、地元の食材を活用すること。それに高付加価値を付けること。郷土料理は、全国に誇れるものがたくさんある。ネーミングも方言を活かすこと。</p> <p>○食のみやこプラザもいいが、いかに鳥取に下らせるかだ。B級グルメはもはや過ぎ去った。田舎のばあちゃん料理が復活している。</p>
II 食を彩る	2 新しい鳥取の味	○料理コンテストの実施など
	3 食で地域を盛り上げる	○幸せになれる食の力を活かし、B級グルメ大会や食を活かしたイベントなどを開催することで、地域を元気にしたり、県外からのお客さんも来て、食で楽しい鳥取県になればよい。
	5 食のコラボレーション	○美味しい安全な食を実現するためには、きれいな自然環境、特に清らかな水・空気が重要。料理を行うにも水は重要な要素。もっと水の重要性を強調すべき。
III 食を楽しむ	1 イメージ戦略(ブランド戦略)	<p>○札幌、博多という地名を聞いただけラーメンを思い浮かべるように、地域ブランドがとっても大切。「鳥取と聞いただけでよだれが出る」これを最終目標にすべき。それには何でもあるより、焦点を絞って、例えばカレーを核として取り組むことが必要。</p> <p>○温泉やレジャー施設の充実は必要だが、○○へ行けばそこで取れた美味しい料理があると発信していければ、人も呼べる。</p>
	4 情報発信	○鳥取県の食材の多さ、美味しさを都会へ出て伝えたり、試食したりしてはどうか。

(2) 既に盛り込み済みのご意見や視点 12件

分野	ご意見	
I 食を学ぶ	1 生産者と消費差をつなぐストーリーづくり	<p>○もっと地元の農家、地元の野菜に触れたいけどそういう場所がない。素晴らしい食べ物がたくさんあるので、もっと取り組んでほしい。</p> <p>○新聞で日本ほど農業を大切にしない国はないと言っているジャーナリストがいた。</p>
	3 地産地消	○食材は境港で陸揚げされる日本海の新鮮な魚介類を料理の腕をふるって味わってもらいたい。
	5 食育・食農教育	○学校などでもっと農業体験をして、その食材を楽しみながら食し、美味しさを共感できたらよい。
	6 給食	○観光と食をセットにして、鳥取のイメージブランドを確立する。地産地消をまず給食から定着。

Ⅲ 食を楽しむ	1 イメージ戦略 (ブランド戦略)	○地域の食材や農林業の魅力を発信。イベント等で意識付け、教育や観光と結びつけ魅力を発信。 ○食の基本を全国に発信する。 ○鳥取県の食のすばらしさを発信してほしい。 ○ブランド化には、少々高くても気軽に食事のできる場所と料理人の味を伝える焦点作りが必要。 ○値段が高くても、手間がかかっても特別感のある商品の開発に力をいれていくこと。
	4 情報発信	○鳥取の豊かな食べ物を全国の方に知っていただくように、定期的に食べ物をアピールするイベントを開催していただきたい。 ○郷土の産物を使った商品（特に郷土料理）の販売をやってみたい。

(3) 食のみやこアクションプログラム策定の上で参考とさせていただきご意見・・・ 6件

主なご意見
○食のみやこ鳥取県というフレーズは大変いい。それに使用している赤い色、文字などのデザインはとてもインパクトがあって素晴らしい。
○食が崩壊した。家族と一緒に食事をしない。子ども非行につながる。食は基本、だから食に対して行政が動き出したことは非常にいいこと。
○ウオーキングブームだが、健康に関心がある方は食についても関心があるはず。開催日には参加者にパンフレットを配るなどしたらいかか。
○このアクションプログラムのように食をカテゴリーに小分けずに、食のすべてを融合させるプロデューサーが必要なのでは。
○消費者側のアクションプログラムは多く見受けられるが、生産者側と消費者を繋ぐ各地域の市場がおざなりになっている。
○環境に合う自然体の作物生産の育成

3 その他

次のご意見は、具体的な提案であることから、政策提案として「県民の声」扱いとして担当課に送付しました。

主なご意見
○鳥取応援団を育てるための食育イベントの企画・運営のための補助事業はどうか。
○県外の友人、知人、親戚に食の情報を発信する県内の人をインターネットボランティアとして募ってみてはどうか。
○食の過当競争に勝つためには、1番になるものに誰もが知っている単語を付けてキャッチフレーズとし、消費者に覚えていただかなければならない。
○「中国地方の最高峰大山の鳥取の食」をキャッチフレーズにしてリピーターの開拓をする。そのために、①河原町に無料休憩所、②千代川河川敷駐車場の利用、③鳥取砂丘と水木しげるロードを船で繋ぐ方法が考えられるので参考にして欲しい。
○物流面でバックアップする仕組みづくりが必要。品目ごとではなく、地域というくりに変えた小口流通が必要。野菜や魚、肉や米、酒なども情報を一本化したパッケージ物流システム。
○食育や地産地消には料理をする技術が伴わなければならない。本来は家庭で教えるべきことだが、行政で技術を教えることをお願いしたい。